

会長あいさつ

長野県・山梨県中部横断自動車道建設促進連合会
会長 長野県知事 阿部守一

平成 28 年度熊本地震では、九州自動車道をはじめ道路網が寸断され、物流が途絶え、経済活動、住民の日常生活も困難になりました。改めて道路の重要性を痛感した。災害時にもしっかり機能できる道路網の構築が不可欠と考えます。

中部横断自動車道もまさにそういう道路であり、産業経済等に活力を与え、地方創生に繋がる道路と認識しています。また、予想される南海トラフ巨大地震等の大規模災害時には、沿岸部と内陸部を結ぶ緊急輸送路としての役割を果たす、正に命の道であり、きわめて重要な政策です。

現在、国土交通省及びネクスコ中日本が鋭意整備中であり、長野県側では佐久南インターチェンジから（仮称）八千穂インターチェンジが、山梨県側でも増穂インターチェンジから新清水ジャンクションが平成 29 年度に開通予定です。

唯一残る基本計画区間の長坂から八千穂間は、平成 27 年 4 月に国が計画段階評価の対応方針を決定。環境アセスに進む段階に来ています。今後は、長野県・山梨県の全区間一体で環境アセスが速やかに進められ、早期に事業化されることが重要と考えています。

本日は、一日も早い全線開通を待ち望む沿線地域の皆さんが大勢参集した。早期整備を切望する声を結集し、関係機関に届け、一日も早い整備につなげていきたい。